

# グローバルにSDGsに取り組む

2025年1月25日

国際協力機構（JICA）中部センター 所長

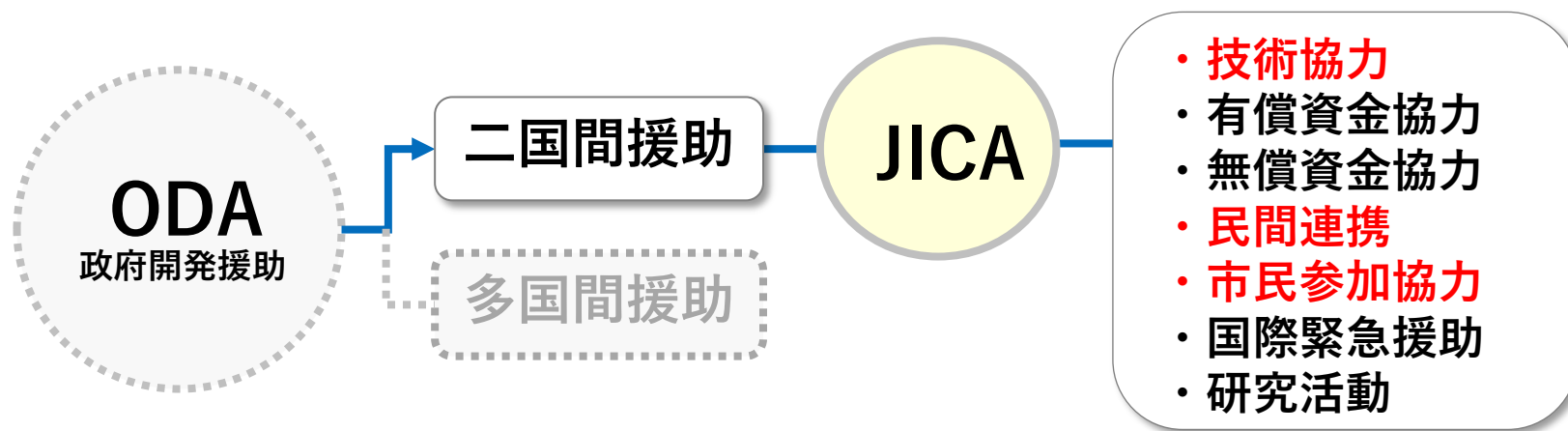
上町 透

\* 本日の講演内容は個人の見解に基づくものであり、JICAの見解等を代表するものではありません。



# 1. JICA・JICA中部の概要

# JICAの概要



- 世界の約140の国・地域を対象に事業を展開
- 開発途上国の人材の本邦研修、民間企業連携、市民参加協力（JICA海外協力隊派遣、草の根技術協力、開発教育等）を日本国内で実施

# 地域連携を担うJICAの国内拠点等

- 全国に 13 拠点と 2 訓練所（駒ヶ根、二本松）
- 「国際協力推進員」を「地域のJICA窓口」として、全国の地域国際化協会等に配置
  - ✓ 地域の国際協力事業、外国人材受入・多文化共生にかかる課題解決のための取組みを推進
  - ✓ 中部地域では4県に計5名配置



# JICA中部の概要

- 所在地： 名古屋市中村区(ささしまライブ)
- 愛知県、岐阜県、三重県、静岡県を担当
- 主要業務
  - ✓ 研修事業
  - ✓ 企業連携事業
  - ✓ 市民参加協力事業（草の根技術協力、JICA海外協力隊、開発教育）
- なごや地球ひろば
  - ✓ 「地球案内人」によるガイド
  - ✓ SDGsに関する体験学習
  - ✓ JICA中部が受け入れる研修員との交流、国際協力に関する発信
  - ✓ 途上国の食事体験(カフェクロスロード)





## 2. SDGs設定から10年：2025年の世界と日本

# 2015年以降のSDGs・ESDに関する主な国際会議

- 2015年 **国連持続可能な開発サミット**
- 2016年～ **持続可能な開発に関するハイレベル政治フォーラム（HLPF）**  
毎年テーマを設定してSDGsの実施状況をレビュー
- 2019年 **SDGsサミット**  
SDGsの達成状況を初めて包括的に評価。「SDGs行動の10年」（Decade of Action）を提案。
- 2021年 **UNESCO 「ESD for 2030 世界会議」**
- 2023年 **SDGsサミット（第2回）**  
達成状況の再評価。「2030年までのSDGs達成に向けた行動の強化とパートナーシップの推進」を約束。
- その他、**国連海洋会議（2017年、2023年）**、**パリ協定（2016年）**、**気候変動枠組条約締約国会議（COP）**、**国連生物多様性会議（CBD COP）**、**開発資金国際会議（第3回（2015年）、第4回（2025年、予定））**

# 2015年以降のSDGs・ESDに関する日本政府の国内での主な取組

## 【SDGs】

- **SDGs推進本部** 設置（本部長：内閣総理大臣、2016年）
- **SDGs推進円卓会議** 設置（事務局：内閣官房。JICAも構成員、2016年）
- 「**SDGs実施指針**」策定（2016年12月）と改定（2019年、2023年）
- 「**SDGsアクションプラン**」策定（2018年～毎年）
- 「**SDGs未来都市**」選定（2018年～）
- 第5次環境基本計画「**地域循環共生圏**」提示（2018年）

## 【ESD】

- （「**ユネスコESD世界会議**」共同開催 「**ESDに関する世界行動計画**」（2014年））
- 「**ESDに関する関係省庁連絡会議**」設置（2015年）
- 「**ESD円卓会議**」設置（2015年）
- 「**ユネスコESD世界会議**」共同開催（オンライン）「**ESD for 2030**」（2021年）
- 「**第2期国内ESD実施計画**」策定（2021年）2025年中間的レビュー、2029年総括的レビュー予定
- （日本ユネスコ国内委員会「**ESD普及促進のためのユネスコ・スクール活用について**」（2008年））
- 「**ESD活動支援センター**」設立（2016年）、「**地方ESD活動支援センター**」設立、「**地域ESD拠点**」登録（2017年～）



# 中部におけるSDGs・ESDの実施体制の構築

- (2007年 **中部ESD拠点**の幹事機関として**中部大学**認定。 **「国際ESDセンター」** 開設)  
(2019年に **「ESD・SDGsセンター」** に改名)
- 2015年 愛知県 **「ユネスコスクール支援会議」** 設置
- 2015年 愛知県 **「かがやけ☆あいちサスティナ研究所」** 設置
- 2015年 愛知県 **「三河湾環境再生パートナーシップ・クラブ」** 設置
- 2016年 **「ESDコンソーシアム愛知」** 発足
- 2016年 中部ESD拠点 **「中部サステナ政策塾」** 開塾
- 2016年 **「愛知学長懇話会サステナビリティ企画委員会」** 設置  
(2019年に解消。新たに **「SDGs企画委員会」** 設置) リレーシンポ開始
- 2017年 **「中部地方ESD活動支援センター」** 設立 (官民協働プラットフォーム) /EPO中部
- 2017年～ 中部ESD拠点 **「SDGsフォーラム」** 開催
- 2019年 (一社) **「中部SDGs推進センター」** 設立
- 2020年 **「中部圏SDGs広域プラットフォーム」** 設立 **「中部圏SDGs広域フォーラム」** 開催
- 2023年 **「いのちをつなぐ水と流域・地球市民対話プロジェクト」** 第1回フォーラム (2025年大阪・関西万博での「地球市民対話フォーラム」に向け、2025/2/22に第3回フォーラム (東京) を予定)

# SDGsの背後における2015年以降の世界の状況の変化

- （「パリ協定」の発効（2016））
- 地球沸騰**、自然災害の増加と米国における環境規制緩和、化石燃料産業支援
- 新型コロナのパンデミック**（数百万の死者、貧困層への影響、経済への影響、ワクチン開発と分配の不平等）
- 戦後国際社会の基本原則（国際紛争の平和的解決・自由貿易）の揺らぎ
- 米国の国連機関からの脱退、拠出金の削減、開発援助の削減
- 紛争、政変**（アフガニスタン、ミャンマー、ウクライナ、中東（パレスチナ、レバノン、シリア））、国連の機能不全、人道危機の深刻化、食糧流通の混乱
- 難民・国内避難民の増加と難民・移民への不寛容なスタンス、欧米、その他地域での**社会の分断、ポピュリズム**の蔓延
- 技術革新とデジタル格差

# 日本における状況の変化

- 人口の減少と高齢化
- 在留外国人の増加、受け入れ態勢整備の遅れ、人権問題の発生
- 地方の衰退と地域間格差の拡大
- 経済的格差の拡大と貧困層の増加
- 外交：対米政策、対中・北朝鮮政策、複合的危機への対応
- 「開発協力大綱」の改定（2015年、2023年の2回）
- ODA予算の低迷（一般会計当初予算：1997年度11,687億円→2015年度5,422億円→2024年度5,644億円）



**3. グローバルなSDGs達成への貢献を最大にするために  
～中部で取り組みたいこと～**

# 日本は世界にどう向き合うべきか（1）

- ブレない。 グローバルなSDGsの達成に貢献する努力を維持・強化
  - 戦後80年（ODA70年（71年目）、海外協力隊60年）積み重ねられてきた日本への「信頼」を生かす。壊さない。
  - 「ルール」に基づく国際秩序は日本の生命線。その回復、維持、拡大に向けた努力をリード。
  - グローバルなSDGsの達成へのコミットは、その象徴。
  - 開発途上国のSDGsの達成にコミットする。
- 発信する
  - 効果的な発信のタイミングの見定め。そのタイミングに向かって準備。
  - 実行、実績に裏付けられた発信。次の実行を期待させる発信。
  - 発信者を育成、確保する。 ・ ・ 開発パートナー？政治家？
- 大きなコンテキストに位置付ける、世界につなげる
  - ローカルなSDGsを大きなコンテキストに位置付ける。
  - 世界と経験を共有する、開発途上国の課題解決に活かす。

# 日本は世界にどう向き合うべきか（2）

## ●内なる国際化に向き合う、生かす

- 国内での多文化共生の状況は世界の日本への信頼を左右する。
- 多文化共生は国内外の課題解決に向けた新たなアプローチのチャンス。

## ●学び合う姿勢で臨む

- 日本は、国民総数、GDP総額で次々に追い抜かれる。淡々と受け止める。
- 日本の課題解決の経験は開発途上国に生きる。（「**JICA開発大学院連携／JICAチェア**」）
- 開発途上国の課題解決に向けた協働は日本の課題解決にも生きる。

# JICA中部として、中部のSDGs・ESDの取組をどう活かすか（案）（1）

## ●頭に置くべきタイミング

### ➤ターゲット

- SDGs、ポストSDGsに向けた国際会議（約5年後）

### ➤イベント

- 大阪・関西万博
- TICAD
- 愛・地球博20祭
- アジア・アジアパラ競技大会

### ➤周年

- JICA海外協力隊60周年
- 名古屋フェアトレードタウン10周年

# JICA中部として中部のSDGs・ESDの取組をどう活かすか（案）（2）

## アプローチ1 中部のSDGsに関わる技術、知見、経験を開発途上国のSDGs達成に活かす

- ✓ 地域の課題と開発途上国の課題の両方に取り組む中部のパートナーとの連携強化  
大学、公益法人、NGO等
- ✓ 中部地域に比較優位のあるSDGs関連技術等とJICA事業の接点を増やす
  - ・本邦研修における視察 ・ JICA留学生（参考1）のインターン
  - 例：「名古屋大学・インドPGPEXプログラム共同ワークショップ」（「世界経済を牽引するインド製造業次世代リーダーたちと学ぶ4日間 3/14-17）
- ✓ 中小企業・SDGsビジネス海外展開支援事業の活用  
[https://www.jica.go.jp/domestic/chubu/activities/priv\\_partner/index.html](https://www.jica.go.jp/domestic/chubu/activities/priv_partner/index.html)
- ✓ 特にスタートアップ支援
  - 例：愛知県・ステーションAI・JICA共催セミナー 「日本 x アフリカ：スタートアップ連携で描くビジネスの未来地図」
  - [https://www.jica.go.jp/domestic/chubu/information/event/1559108\\_23951.html](https://www.jica.go.jp/domestic/chubu/information/event/1559108_23951.html)



# JICA中部として中部のSDGs・ESDの取組をどう活かすか（案）（3）

## アプローチ2 中部のSDGs・ESDインフラ、ローカルSDGsと、もっとつながる、もっとつなげる

- ✓ JICA留学生の中部のローカルSDGsへの参加、短期研修員による視察・交流
- ✓ JICA海外協力隊事業とローカルSDGsの接点を創出
- ✓ 名古屋NGOセンターとJICAの連携事業「国際協力カレッジ」の活用  
国際協力カレッジ2024（開催済） [https://www.jica.go.jp/domestic/nagoya-hiroba/news/2024/1558955\\_52358.html](https://www.jica.go.jp/domestic/nagoya-hiroba/news/2024/1558955_52358.html)
- ✓ 「中部サステナ政経塾」との連携
- ✓ JICA中部の開発教育関連事業（参考2）と中部のユネスコスクール支援との連携
- ✓ 名古屋フェアトレードタウン10周年、「愛・地球博20祭」との連携

## アプローチ3 中部の課題解決と開発途上国の課題解決と一緒に取り組む

- ✓ 海外の日系人支援 × 日本の外国人集住地域における外国人共生の取組の連携

例：日系サポーター研修（参考3）

- ✓ 日本への労働者の送付、帰国後の母国での活躍を見据えた送出国の能力強化のための協力と中部の人材ニーズとのマッチング強化

参照：日本と途上国をつなぐJICAの外国人材受入支援 | ニュース・広報 - JICA

- ✓ 伊勢・三河湾流域圏と、特定の途上国の流域圏の共通課題（防災、環境保全、水循環等）の間の、産官学民の学び合いの枠組みの構築（アイデア段階）



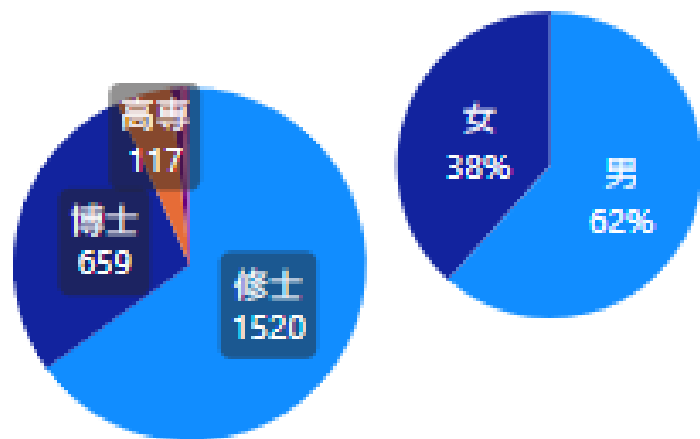
参考

## 参考1. JICA留学生

「SDGsグローバルリーダーコース」（長期研修の一つ）、「人材育成奨学計画」（無償資金協力）等の留学生受入プログラムで、開発途上国の政府職員、大学・研究機関の研究者等を日本の大学に留学生として受入。

2024年11月1日時点の在籍者数

113 カ国から 2336 人



地域	人数	国	人数
アフリカ	746	タイ	141
東南アジア	674	ベトナム	114
南アジア	319	ケニア	109
中央アジア	156	モンゴル	98
中南米	132	カンボジア	97
大洋州	99	バングラデシ	94
東アジア	98	ユ	
中東	91	フィリピン	87
全世界（広域）	14	ナイジェリア	81
欧州	7	ラオス	80

（長期研修員、人材育成奨学計画により留学中の人数。中部4県では、111人(2024年11月)）

## 参考 2. JICAの開発教育支援事業

### 【目的】

国内外で持続可能な社会の創り手として活躍する人材の育成

### 【3つの重点】

- ①日本社会に対する開発途上国に関する「知見の還元」
- ②自分に何ができるかを「考える機会の提供」
- ③地域での開発教育促進のための「橋渡し役」

### 【学校教育における開発教育推進】

- ①小・中・高の児童生徒、②教員を主な対象として、様々な開発教育支援(講義・研修、教材制作、教科書への掲載等)を展開。
- 本部及び国内拠点(15カ所)において、教育委員会やNGO/NPO等と連携・協力して事業を展開。

# JICAの開発教育支援事業 (主な取組)

## 【児童・生徒向け】

### ● 国際協力出前講座

- JICA海外協力隊経験者や職員などが開発途上国での体験談や国際協力について講義。

### ● 地球ひろば等施設訪問

- 地球ひろば(東京、名古屋等)や国内拠点展示施設(横浜、他)で展示案内やワークショップ等を提供。

### ● 国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト

- 世界の課題や国際協力に関するエッセイを募集、審査、表彰。





参考2  
(続き)

# JICAの開発教育支援事業 (主な取組)

## 【教員向け】

### ● 教師海外研修

- 国内での事前研修の後、途上国の現場を訪問。
- 事後、成果を活かして、授業実践。
- 一般コース (一般教員向け、10コース)  
教育行政コース(学校管理職、教育委員会向け、1コース)

### ● 教員研修・セミナー(国内)

- 開発教育指導者研修「初級編」「実践編」
- JICA主催または教育委員会等との連携セミナー。
- 愛知県では、全員受講の「小中学校初任者研修」「高等学校・特別支援学校所員者研修」でも講義。



## 参考3 日系サポーター研修

中南米の移住者・日系人支援の一環として実施している「日系研修」の一部。日本の日系人集住都市の提案に基づいて実施することで、受入都市における多文化共生推進上の課題解決にも寄与することを目指す。

### 【事例】

- ✓ 研修員氏名: 吉實 フィリッペ よしおさん
- ✓ 研修受託先: 可児市国際交流協会
- ✓ 研修テーマ: 在日日系ブラジル人へのソーシャルワーク  
(日本語教育、母語教育、市役所業務等)
- ✓ 本邦研修: 2022年6月19日～2023年3月4日  
(2020年度、2021年度には遠隔研修を実施)



左：地元の方々を交えた報告会

右：未就園児に対する日本語教室での支援